

2021年度のEPO業務 事務局案

2021年度・第1回 ESD/EPO運営委員会

地域循環共生圏づくりの支援について
(環境省事業プラットフォーム (PF) 採択団体への支援等)

EPO中部による地域循環共生圏づくりの支援業務について

- ✓ 全国的な統一フレームの業務あり;「マンダラ(ローカルSDGs)」、「達成指標」、「ステークホルダーリスト」の作成・提出、成果発表会などあり
- ✓ EPOは各PFにヒアリングして必要な支援計画を立案、必要に応じて伴走支援
- ✓ 「経済分野」におけるEPOのネットワーク基盤強化業務と関連づけた会合等の実施
- EPOの催事登壇・Web掲載等で事例のPRと蓄積

① 環境省事業PF採択(3団体)

- ✓ :業務として位置づけ
- :業務の延長で実施、相談対応等として実施

- ✓ 協働コーディネーターとの連携事業(福井県、長野県の2エリアで実施)
- ✓ PF応募予定団体等の掘り起しと応募の後押し(ヒアリング実施)
- 各団体が開催するイベント、普及・啓発、ステークホルダー巻き込み等における支援

② 将来の取組主体/PF応募団体

参考)地域循環共生圏及び環境省のプラットフォーム構築事業について

<https://www.epo-chubu.jp/help/area>

- ✓ 自治体職員向けワーキングの開催;地域循環共生圏の普及啓発(毎年名古屋で開催)
- ✓ 主催フォーラムで関心の喚起
- ✓ 自然資源のワイズユースをテーマにした業務で勉強会
- そのほか相談対応等の延長からワーキング等展開支援

③ その他(関心のある)地域

本年度業務の具体的な対象：PF団体や連携団体（協働コーディネーター等）

※次頁参照

a) PF事業の採択団体

①一般社団法人スマート・テロワール協会（長野県上高井郡小布施町）

※事業化支援（全国事務局による支援）

②郡上市地域共生圏協議会（岐阜県郡上市）

③のと共栄信用金庫（石川県七尾市）

b) 協働コーディネーター※との連携事業

●山室氏（長野県NPOセンター事務局長）と連携して長野県内でローカルSDGsの勉強会等

●中畠氏（NPO法人 WACおばま理事長）と連携して福井県小浜市で地域循環共生圏づくりの推進事業

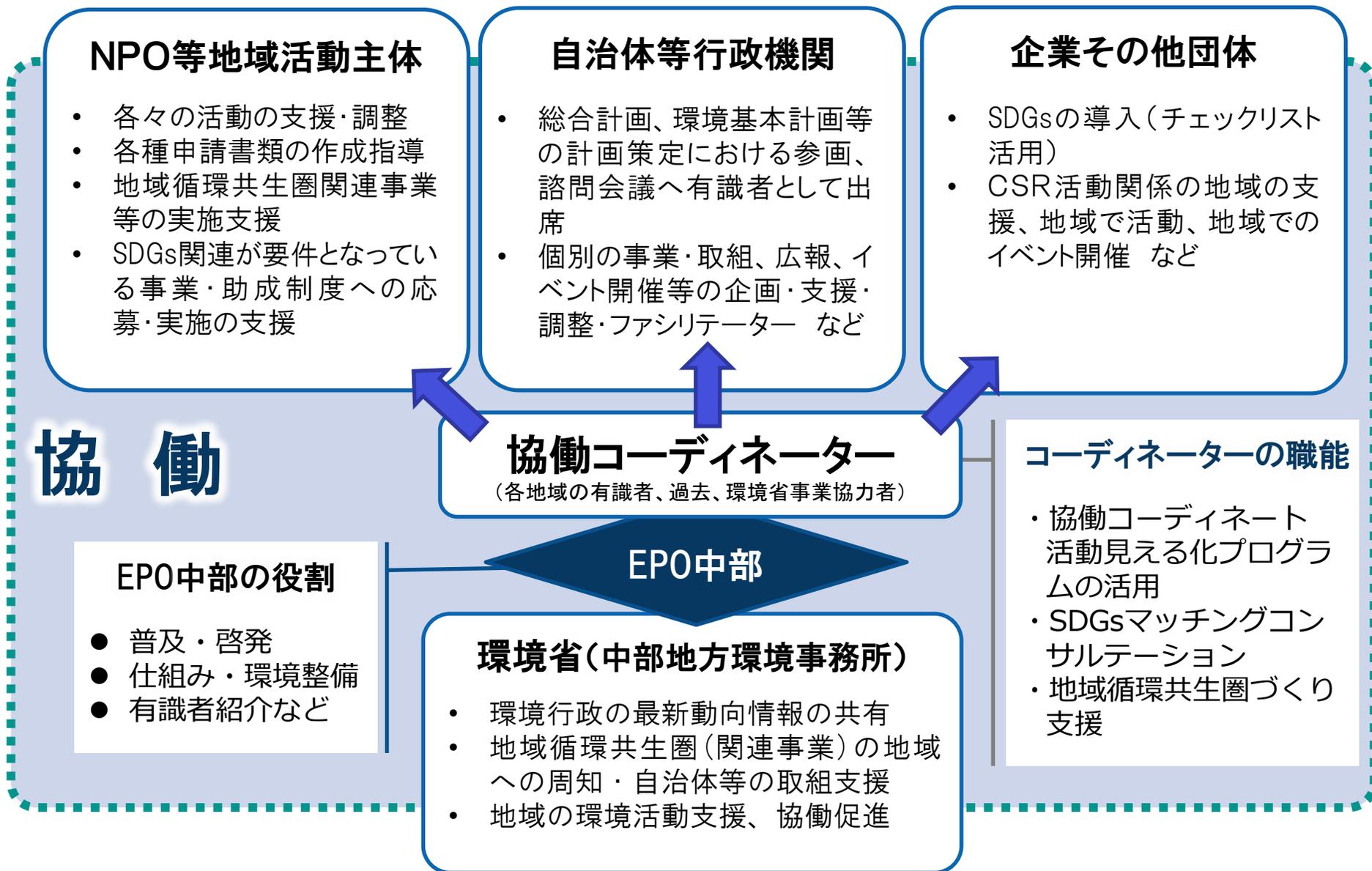
●三田村氏（ローカルSDGsクリエイション社長／元越前市役所職員）と連携して福井県越前市でローカルSDGsフォーラム開催予定

c) その他

■<森里川海業務>森里川海推進ネットワーク形成会合；白山市ジオパーク・エコパーク推進課との連携による自然資源のワイズユースをテーマにした会合を検討

■<基盤強化業務>共生圏パートナーシップ基盤強化業務；**1.左のPF②・③を対象にした勉強会（計2回）、2.環境省同時解決事業実施エリア（長野県飯山市）での情報交換会、3.「脱炭素」をテーマにした情報交換会を検討**

EPO中部が実施した地域循環共生圏づくり支援の内容を整理し、プログラムとしての公開を想定



2021年度業務における協働コーディネーターとの連携展開予定

連携する協働コーディネーター	連携内容(予定)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター 事務局長) 	<ul style="list-style-type: none"> • 長野市芋井地区で地域循環共生圏づくりの普及啓発事業を実施
<ul style="list-style-type: none"> ■ 中畠阿児氏(NPO法人 WACおばま理事長) 	<ul style="list-style-type: none"> • 福井県小浜市におけるSDGs・地域循環共生圏の推進活動を実施
<ul style="list-style-type: none"> ■ 三田村佳政氏(合同会社ローカルSDGsクリエイション社長) 	<ul style="list-style-type: none"> • 福井県越前市で協働による地域循環共生圏をテーマに勉強会等を開催
<ul style="list-style-type: none"> ■ 希望するコーディネーター等 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治体職員対象の地域循環共生圏づくりワーキング(毎年開催)でファシリテーターとして参画
<ul style="list-style-type: none"> ■ 堺勇人氏(環境市民プラットフォームとやま) 	<p>(※ESD業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> • SDGs社会教育(社会ESD)研究会業務で連携 • 同業務の実践活動で六渡寺海岸(富山県射水市)の漂流ゴミ問題から、庄川、小矢部川流域のSDGs的な俯瞰体験イベントを実施
<ul style="list-style-type: none"> ■ その他 	<p>(※ESD業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> • SDGsチェックリストを活用したワークショップ連続講座の講師役など

主催イベントの開催について

EPO主催イベント予定の一覧

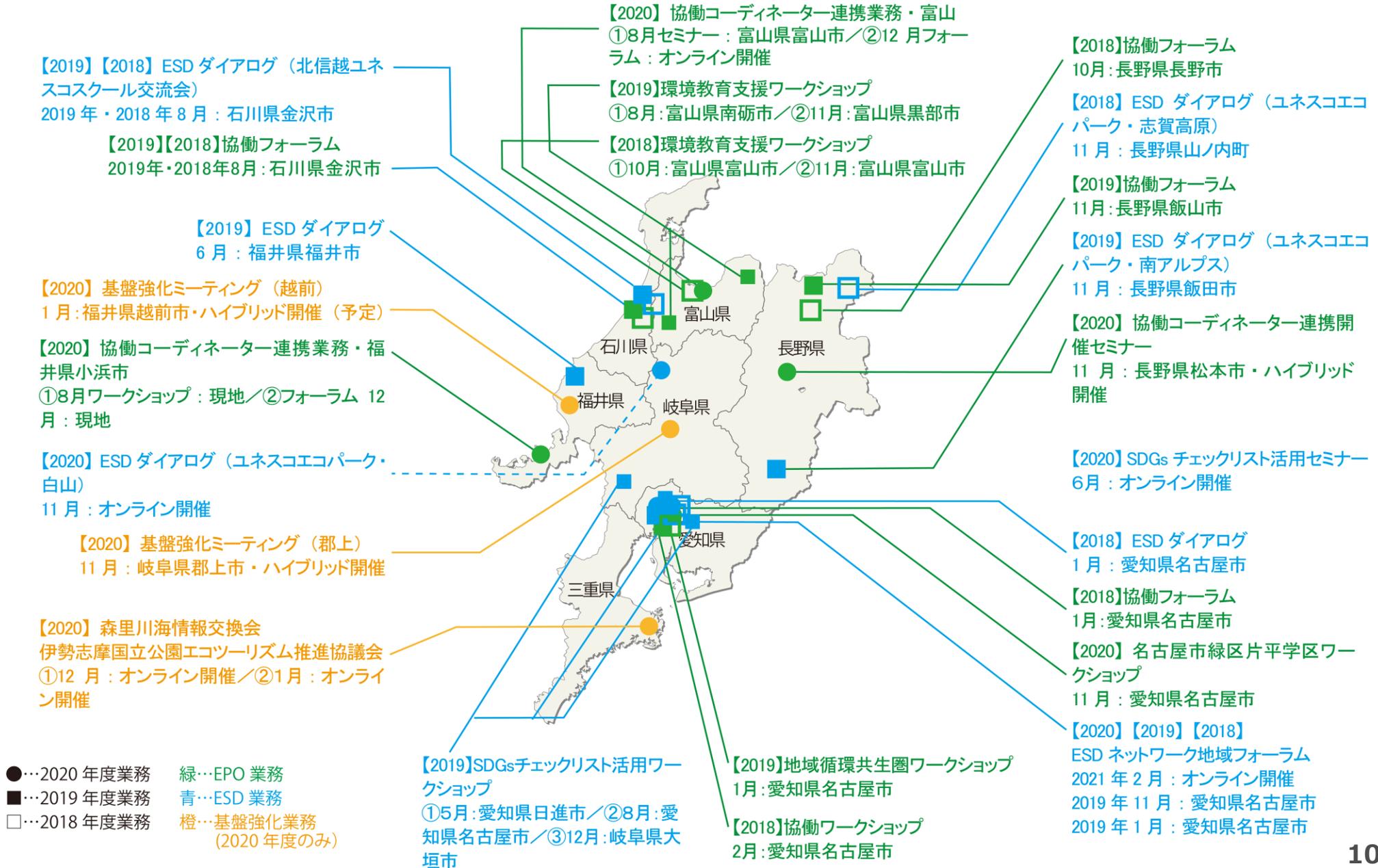
※原則、オンラインまたはハイブリッド開催を想定

区分	開催日	エリア	内容案
協働コーディネーターと連携したフォーラム開催	未定	福井県 越前市	テーマ:コウノトリの保全・シンボル活用と地域循環共生圏 ● 協働コーディネーター・三田村氏と連携、2020年度PF団体との連携(未)
協働コーディネーターと連携した実践活動	2回開催	長野県 長野市	● 協働コーディネーター・山室氏と連携 ● 長野市芋井地区で地域循環共生圏づくりの普及啓発を実施(PF下地づくり)
	2回開催	福井県 小浜市	● 協働コーディネーター・中嶋氏と連携 ● 小浜市において地域循環共生圏づくり推進活動を実施
森里川海推進ネットワーク形成会合	2回開催	白山国立公園	国立公園等を自然資源のワイズユース共創拠点とする情報交換会を実施。 ➢ 白山市ジオパーク・エコパーク推進課との連携企画を調整中
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	6月26日	長野県 飯山市	金融機関、経済団体、財務局等参加の情報交換会等を開催し、関係構築を目指す。 ● 2018-2019年度実施の同時解決事業採択団体など登壇➡別紙チラシ参照
	未定	岐阜県 郡上市	➢ PF郡上市地域循環共生圏協議会のニーズをもとに企画予定
	未定	石川県 七尾市	➢ PFのと共栄信用金庫のニーズをもとに企画予定
	未定	オンライン	➢ 脱炭素ロードマップ閣議決定(6月予定)を受けて企画予定
SDG/地域循環共生圏セミナー	未定	未定	● 主に自治体職員等を対象に実施する実践ワーキングセミナー
環境白書を読む会	7月20日	オンライン	※EPOは企画協力、運営支援 ● 名古屋市(なごや環境大学)と連携開催

参考) 前年度・2020年度のEPO主催イベント

区分	形式	開催日	実施内容	開催方法
協働コーディネーターと連携したフォーラム	フォーラム	11/10	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営委員／協働コーディネーター・山室氏の協力を得て開催。 ● 会場：長野県松本市 ● 共催：松本市、後援：長野県。 	ハイブリッド(現地開催＋ライブ配信)※ワークショップは現地のみ
森里川海推進ネットワーク形成会合	(第1回)	12/7	<ul style="list-style-type: none"> ● 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の情報交換会として開催。 	オンライン＋録画配信
	(第2回)	1/18	<ul style="list-style-type: none"> ● PF尾鷲による取組紹介、東海財務局のオブザーバー参加あり。 	オンライン＋録画配信
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	①郡上	11/25	<ul style="list-style-type: none"> ● PF郡上の第4回勉強会時に併せて開催。 ● 登壇者はPF事業アドバイザー・谷中修吾氏と、東海事務局岐阜財務事務所総務課長。 	ハイブリッド(現地開催＋ライブ配信)※後半ワーキングは現地のみ
	②越前	1/26	<ul style="list-style-type: none"> ● PF越前のメンバー、越前市、北陸財務局、日本政策投資銀行等が登壇。 ● 運営委員・加藤氏がトークセッションにコーディネーター登壇。 	オンライン
地域住民向けワークショップ	SDGsワークショップ	11/14	<ul style="list-style-type: none"> ● 名古屋市緑区片平学区関係者からの相談対応を発端に実施。 ● 運営委員・千頭氏が講師として登壇。 	現地
環境教育推進業務【富山エリア】	セミナー	8/20	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・堺氏との連携業務(3年目)。 ● SDGs・地域循環共生圏づくりの普及・啓発事業を展開。 	現地
	フォーラム	12/12	<ul style="list-style-type: none"> ● フォーラムでは3年間の成果発表を実施(環境教育学会にて)。 	オンライン
環境教育推進業務【小浜エリア】	ワークショップ	9/12	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働コーディネーター・中嶋氏との連携業務。 ● 小浜市が進める「食のまちづくり」をテーマにした地域循環共生圏づくりを目指す事業を展開。 	現地
	フォーラム	12/20	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度PF事業に応募。 	現地

参考) 第5期 (2018-2020年度) 3年間に実施したイベント



独自プログラムの作成・活用について

第5期に構築した「活動見える化プログラム」について

第5次環境基本計画
「地域循環共生圏」提唱

日本発の脱炭素化SDGs構想
(概念図/曼荼羅)



自治体等

地域全体の
バックカスティングの検討
及び
RESAS、地域経済循環分析等
(=フォアカスティング)の活用



地域の課題・
将来像等の
パーツ
メニュー分析

協働による地域活動

見える化
プログラム

地域の中の特定の活動・事業の…



…などを整理して

表分析チャート化
(活動の分析に基づく概念図)

地域循環共生圏づくり・地域創生へ

地域循環共生圏づくりのネットワーク

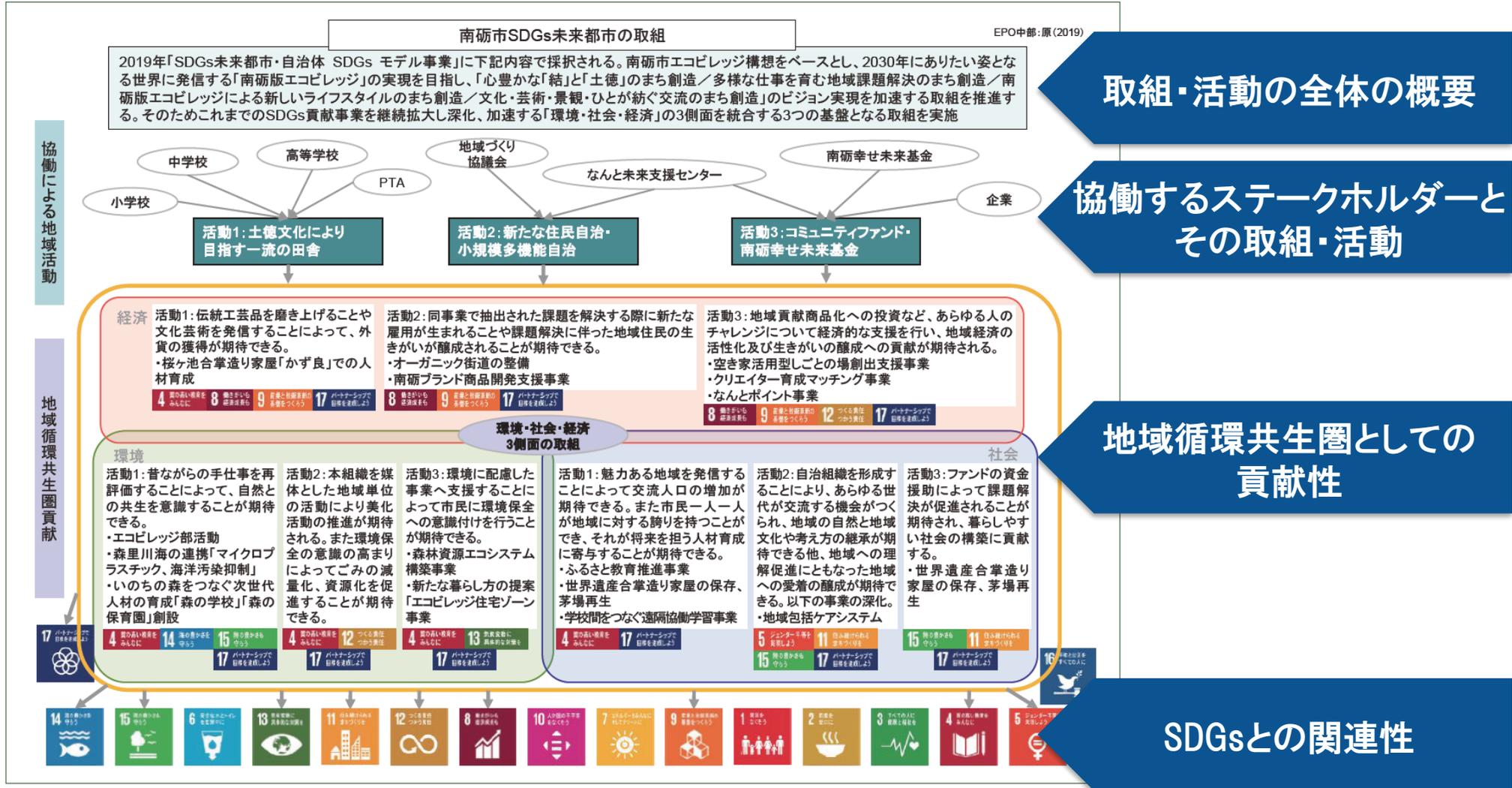
支援（情報、ツール、会合、研究、等）

環境省中部地方環境事務所

EPO中部

活動見える化プログラムのチャート図 (富山県南砺市のチャート例)

▼事例3「南砺市版エコビレッジ事業の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～」の分析チャート



↑ 2019年度に作成した南砺市エコビレッジ事業のチャート図

- ・ 事業主体である南砺市から、住民説明用に活用したいとの依頼を受けて作成した。
- ・ このチャート図では、「これまでの取組結果」ではなく、「これからの取組による構想」を整理した図となっている。

おわせSEAモデル構想ステークホルダー・ミーティング

（目的） おわせSEAモデル構想の取組紹介及びSDGs・地域循環共生圏への貢献性の解説
関係事業者からの意見を踏まえ、地域資源・価値の再発見に取り組み、プロジェクトの更なる推進とステージアップを目指す

（日時） 令和2年11月5日（木）13:30～16:30

（参加者） 35団体、76名

【意見交換会を開催したことにより得られた成果等】

- おわせSEAモデル構想の進捗状況の共有
 - ✓ 各PJにおける新たなエリアプランと今後の取組
 - ✓ 撤去工事の進捗状況
- 構想実現に対する意見・課題の共有
 - ✓ 津波浸水域
 - ✓ 大都市圏からの距離及び足元圏人口の少なさ
 - ✓ 中核となる事業主体・運営主体が見えない など
- 課題解決に向けたアイデアの共有
 - ✓ 地域資源の積極的な活用・PR（ex.海上釣り堀）
 - ✓ 近隣市町と連携したバイオマスの熱利用
 - ✓ エネルギーの地産地消を軸とした
個々のアイデアの結び付け など
- 今後のステークホルダー巻き込みに係る機運の醸成
- 企業マッチングによる新たな事業の可能性

PF事業・意見交換会で、SDGs・地域循環共生圏への貢献性の説明に、「活動見える化プログラム」のチャート図を用いた。



参考) 前年度・2020年度のPF事業での活用：PF尾鷲「おわせSEAモデルプロジェクト」

活動の意義(評価)分析チャート
200915分析案

おわせSEAモデル

2020年4月時点

中部電力の尾鷲三田火力発電所が平成30年12月に発電設備が廃止され、更なる尾鷲市における産業の空洞化や人口の減少が想定されるとともに、廃止された尾鷲三田火力発電所の跡地を活用した地域活性化施策の実現が課題となった。そこで尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所の跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスを融合した拠点として、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指すこととした。



EPO中部: 原 (2020)

参考) 「活動見える化プログラム」活用によるPF支援の例 (PF小布施の場合)

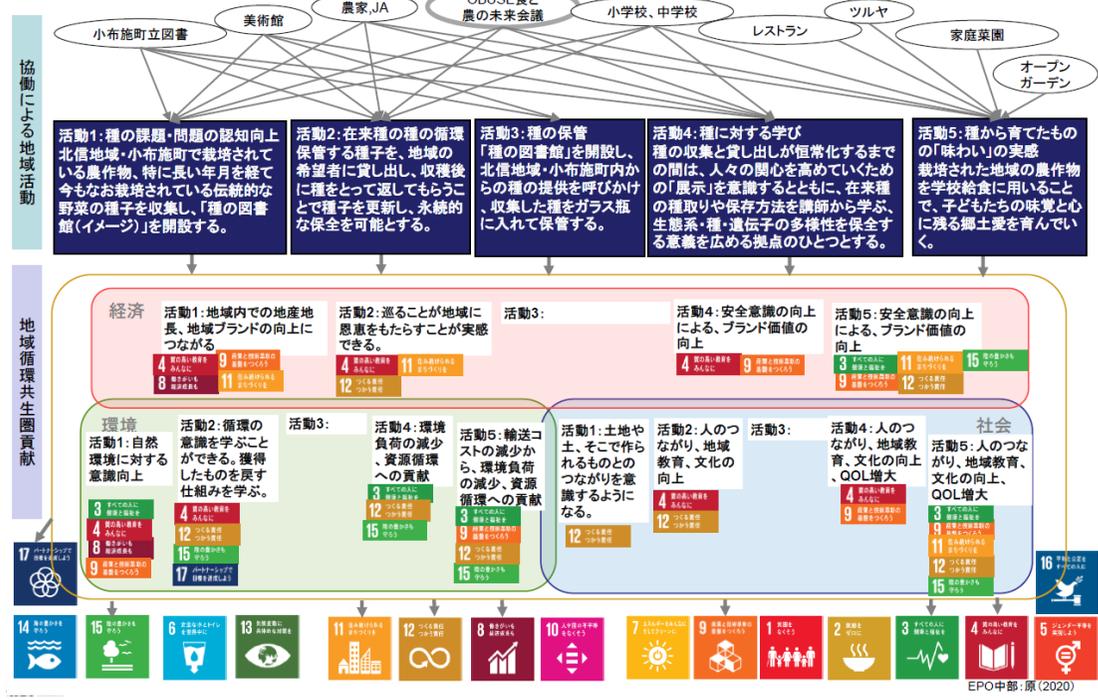
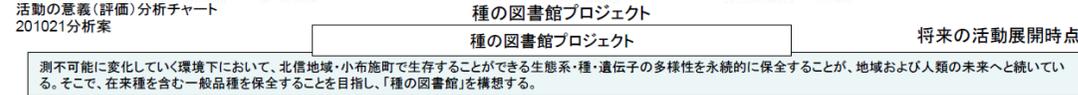
PF事業の全国中間報告会(2020年12月開催)でのPF小布施による発表資料より

「種の図書館プロジェクト」の「活動見える化」分析を検討する(10/16)

実践している協働取組が、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているかを認識するために、「活動見える化」分析を活用し、改めて実施する意義を定義する。

【意見交換会を開催したことにより得られた成果等】

測不可能に変化していく環境下において、北信地域・小布施町で生存することができる生態系・種・遺伝子の多様性を永続的に保全することが、地域および人類の未来へと続いていく。そこで、在来種を含む一般品種を保全することを目指し、「種の図書館」を構想する。



PF事業・意見交換会で「活動見える化プログラム」を用いたことにより「種の図書館プロジェクト」の今後の展開について掘り下げることができたと成果報告。

活動3. 「種の保管」環境・社会、経済への貢献

皆でのディスカッションの結果、これが一番大事で、北信地域で原種センターは1か所しかなく、昨年の水害の被害が影響していたら、伝統作物の種が失われるところであったことが共有された。

実は、活動3がこのプロジェクトの核となっており、自立分散の保管が重要であることが分かった。

その他

行動変容の把握：SDGs実践状況等の評価

※行動変容の把握①：イベント関係者へのイベント効果・成果をヒアリング

PECとやま：ローカルSDGs指標セミナー（2021年2月）

中部大学：問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究（2020年度）指標検討



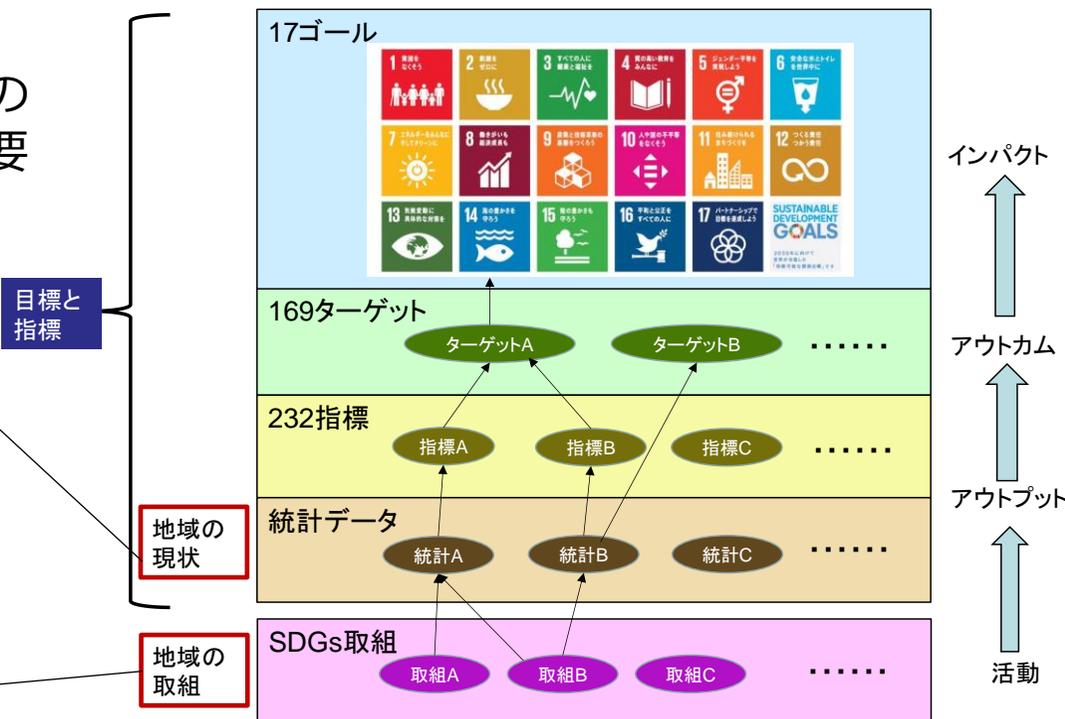
連携して評価メニューやプログラム等の知見を収集し、活用検討、試行評価を実施

- ①地域SDGs評価メニュー、プログラム等の情報を収集
- ②指標や評価方法の分類とSDGs実践状況評価の活用への応用検討
- ③EPO関連の事例から2事例程度、可能なものを抽出し試行的な評価を実施

個々のSDGs取組評価（B）を自治体レベルのローカルSDGs（A）につなげる枠組みが必要

- (A)自治体レベルのローカルSDGs指標の例
- ・全国データ SDGsと日本－誰も取り残されないための人間の安全保障指標
 - ・ローカルSDGsプラットフォーム自治体SDGs指標
 - ・中部大学共同利用・共同研究, 基礎自治体統計データ「地域SDGs状況評価データセット」（試案）

- (B)地域の取組の評価の試みの例
- ・黒部市地域福祉活動計画目標設定の試み「黒部の福祉を良くする活動計画」



地域の現状と取組から見たSDGsデータの考え方

出典：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点研究、ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究

グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

※ 東京海上日動との協働による地域活動の支援 https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/internal_activity/

- 昨年度に引き続き、愛知・福井・三重での3事業のイベント展開が予定されている。
 - 愛知:森の学び舎自然学校、福井:小原ECOプロジェクト、三重:Joint Plus

地球環境基金／全国ユース環境活動発表大会の支援

※ (独)環境保全機構との連携業務 <https://www.erca.go.jp/>

- 2022年度の地球環境基金（助成金）公募の説明会開催、全国ユース環境活動発表大会への協力等が予定されている。

愛知県環境学習コーディネート業務

※ 愛知県からの受託業務 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000060443.html>

- 環境学習に関する学校等からの依頼に対し、相談業務10件、コーディネート業務10件の実施が仕様書に記載されている。

次回会議について

次回・運営委員会の開催について

- 開催時期：1～2月予定
- 開催方法：オンライン
- 時間：13時30分～16時30分（予定）
- 主な議事内容
 - ESD業務、EPO業務の2021年度の実施内容の報告
 - 次年度・2022年度業務の展開案についての検討